



資料2-1

令和6年10月8日
第2回千葉県文化芸術推進懇談会

千葉県文化芸術推進基本計画 令和5年度 進捗状況等について

千葉県文化振興課



はじめに

本計画は、文化芸術に関する施策の総合的な推進を図るため策定した計画であり、その推進のため、基本目標及び施策の柱ごとに指標を設け、進捗管理を行うこととしています。

このたび、令和5年度末の進捗状況等を取りまとめました。

I 「千葉県文化芸術推進基本計画」全体の指標

目指す姿	あらゆる人々が文化芸術に親しみ、交流することで創り育む心豊かな県民生活と活力ある地域社会
------	--

基本指標	目標 (6年度)	策定時 (3年度)	実績	
			(4年度)	(5年度)
この1年間に文化芸術を鑑賞した県民の割合※ (オンラインでの鑑賞を含む)	75.0%	71.8%	74.0%	76.7%
この1年間に、鑑賞を除く文化芸術活動をした県民の割合※ (オンラインでの活動を含む) (「文化芸術活動」とは、創作や出演、習い事、祭りや体験活動、趣味を同じくするグループでの活動への参加を含む)	50.0%	—	24.3%	28.0%

※県政世論調査の結果による。

- ・ 「鑑賞した県民」の割合は、R4年度実績より2.7ポイント増加し、目標を上回る結果となった。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の5類移行(R5.5)に伴い、イベント等が再開され、人々が外出するようになったことや、鑑賞環境の変化(新型コロナウイルス感染症の影響等による)により、オンライン等で気軽に鑑賞できる機会が定着してきたこと、千葉県誕生150周年記念事業をはじめとした様々な文化芸術に触れ親しむ機会の提供を行っており、こうした取組からも、実績が伸びたものと考えられる。
- ・ 「活動した県民」の割合は、R4年度実績より3.7ポイント増加したが、目標の半分程度となっている。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、イベント等が再開され、人々が外出するようになったことや、活動環境の変化により、オンライン等で気軽に活動できる機会が定着してきたこと、千葉県誕生150周年記念事業をはじめとした様々な文化芸術に触れ親しむ機会の提供を行っており、こうした取組からも、実績が伸びたものと考えられる。
- ・ 一方で、活動しなかった理由としては「時間が無い」と回答した方が約3割と一番多く、次に「興味のある活動がない」、「活動に関する情報を得られない」となっており、目標まで届かない理由と考えられる。

→文化芸術の裾野を広げることや、誰もが楽しみながら自己表現できる環境づくりを行うことを基本施策や取組内容に取り入れるとともに、活動に関する情報の発信等についても引き続き取組みを行う。

II 「施策の柱」ごとの進捗状況等

施策の柱1 あらゆる人々が文化芸術に親しむことができる環境づくり

～文化芸術活動を行う人々の自主性や専門性が尊重されるとともに、障害の有無や年齢等に関わらず、誰もが文化芸術活動を行い、鑑賞することができる環境を整備する～

県の主な取組

○千葉・県民文化祭(文化振興課)

県域で活動する文化芸術団体による日頃の文化活動の成果を発表する場の提供及び一般公募による新たな文化芸術の発表の場を設けたほか、「ちば文化資産」を活用したアウトリーチコンサートの開催等を行った。

○障害者芸術文化活動支援事業(文化振興課)

県立美術館での障害のある人の作品展の開催等の作品発表の機会の確保や県全域でのワークショップを実施。

○県警音楽隊派遣(県警本部)

派遣日数122日、式典、カラーガード隊のドリル演技など合計228回の演奏を行った。(前年度109日、226回)

○県立学校施設開放事業(生涯学習課)

生涯学習関連団体等の活動支援のため、7校(文化施設5校、交流施設2校)にて学校施設等の開放を行った。

○さわやか県民プラザ事業(生涯学習課)

県民の自主的な文化活動の促進及び文化活動の機会の提供のため、音楽ワークショップ、高校生バンドフェスティバル等の事業を行った。事業全体での参加者は前年度よりも約8,000人程度増加した。

○千葉県誕生150周年記念事業(文化振興課)

詳細はP.11(施策の柱5)参照

市町村の主な取組

○松戸音楽フェスティバル(松戸市)

市内出身、在住のアーティストらの演奏や市民参加型のワークショップ等を開催し、市民の音楽のすそ野を広げるとともに、音楽を楽しむきっかけとなった。

○浦安バリアフリーコンサート(浦安市)

会場に要約筆記者を配置した入退場自由・声出し自由の障がいの有無に関係なく楽しむことのできるコンサートを開催。障害当事者だけでなく支援者や子どもとその家族などあらゆる人々が文化芸術に親しんだ。

文化施設(音楽堂・美術館・博物館等)の主な取組

○千葉市民夢ステージ(千葉市若葉文化ホール)

身体に障がいを持ちながらも芸術文化に勤しむ市民に発表機会を提供するとともに、多くの市民に勇気と希望を与えた。

○創作美術展(睦沢ゆうあい館)

生涯学習教室生徒及び公民館自主グループ・サークル会員、一般、こども園・小学校・中学校の学習等で身に付けた成果や技術を一般住民に披露し、学習意欲の高揚と生涯学習の啓発を図るため、ホール、廊下、会議室及び公民館ロビーに作品を展示。

施策の柱1 あらゆる人々が文化芸術に親しむことができる環境づくり

(成果指標・実績)

成果指標	目標 (6年度)	策定時 (3年度)	実績	
			(4年度)	(5年度)
県の主催事業や、県内公立文化会館(自主事業に限る)、美術館・博物館において、文化芸術を鑑賞した人数 (オンラインの視聴者数を含む)	増加を目指す ※	—	2,789,759人	4,219,460人
県の主催事業や、県内公立文化会館(自主事業に限る)、美術館・博物館において、文化芸術活動を行った人数 (発表、練習、文化芸術関連の講座への参加等) (オンラインの活動を含む)	増加を目指す ※	—	496,153人	575,757人

※令和4年度に実施する調査の実績値からの増加を目指す。

※令和4年度から新規で設定した指標であるため、まず初年度の実績を調査し、それ以降の増加を目指すこととした。以降同じ。

- 文化芸術を「鑑賞した」「活動を行った」人の数は、R4年度実績より増加した。
- 新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、イベント等が再開され、人々が外出するようになったことや、環境の変化によりオンライン等で気軽に鑑賞・活動できる機会が定着してきたこと、千葉県誕生150周年記念事業をはじめとした様々な文化芸術に触れるイベント等が増加したことや、障害の有無や年齢等に関わらず鑑賞・活動する機会の提供を行ったこと、「ちば文化資産」を活用したアウトリーチコンサートや市民参加型のワークショップの開催等により、身近に文化芸術に親しめる取組を実施したことで、鑑賞する人・活動する人が増えたものと考えられる。

→引き続き誰もが文化芸術を実践し鑑賞できるよう、機会の提供、理解の促進、人材の育成・支援を行うとともに、身近な日常の中にもスポットを当て、文化芸術の裾野を広げることで、誰もが文化芸術の鑑賞や自己表現を行いやすくなるための基盤を整備していく。

施策の柱2 ちばの多様な伝統文化が輝き続ける地域づくり

～県内各地で守られてきた伝統文化を地域で活用し、未来に継承する～

県の主な取組

○伝統芸能・洋楽～ふれあい体験事業(文化振興課)

県内小中学校(27校)に対し、洋楽、伝統芸能(能楽・雅楽・三曲)のプロの演奏者を派遣し、鑑賞及び楽器体験を行った。

○「ちば」の文化芸術発信事業(文化振興課)

伝統文化等の保存・継承に取り組むとともに、県民の文化芸術活動の発展につなげるため、本県の魅力的な文化芸術を発信するための舞台公演を県民が参加できる形で実施。千葉県誕生150周年記念事業と連動した著名人による歌舞伎舞踊公演や狂言公演などを実施しており、定員を超える申し込みがあり反響があった。

○県立美術館・博物館事業(文化振興課)

県立美術館・博物館において、各館の特色を生かした展示や体験事業等の様々な事業を年間を通じて実施した。参加体験型博物館「房総のむら」では、地域に伝わる文化への理解を深めるため、房総の伝統的な生活様式や技術の体験、四季折々のまつりや民俗芸能の上演等を実施している。(和ろうそく、竹細工、お飾り作り体験、さくらまつり)

○伝統的工芸品産業振興事業(観光政策課)

県内の伝統工芸品を2品(「つまみかんざし」、「木彫(仏像彫刻)»)新規指定したほか、指定伝統工芸品展を開催した。

○ちばの食育活動促進事業(環境農業推進課)

関係団体と協力し、食育の推進に向けた動画の普及や、リーフレット類の配布、地域における活動交換会の開催、食育ボランティアに対する研修会等を行った。地域食育活動交換会は前年度よりも2地域多く開催した。

市町村の主な取組

○第18回あさひのまつり(旭市)

市内に伝わるお囃子や神楽などの発表等を通じて、伝統芸能の担い手の相互交流をはかるとともに市民をはじめ多くの人に伝統芸能の奥深さ、楽しさを伝えた。

○成田伝統芸能まつり(成田市)

成田祇園祭の山車や屋台をはじめ、市内の長い歴史の中で受け継がれてきた祭りや伝統芸能を地域の財産として未来へ継承していくことに寄与している。

文化施設(音楽堂・美術館・博物館等)の主な取組

○ちょっとよりみちライブ特別公演 船橋の郷土芸能「二宮神社の神楽」(船橋市民文化創造館(きららホール))

二宮神社の神楽を解説付きで鑑賞する機会を提供することで、市民が地域の文化資源に触れる機会を創出し市内に伝わる貴重な文化遺産を後世に伝え、文化の振興と発展に寄与。

○伝統芸能スコラ「歌舞伎を楽しもう～日本舞踊編～」(青葉の森公園芸術文化ホール)

若手囃子演奏家により設立された「若獅子会」のメンバーと連携し、「歌舞伎の動き」として日本舞踊に焦点を当て、子どもから大人まで楽しめる体験型公演を実施。

施策の柱2 ちばの多様な伝統文化が輝き続ける地域づくり

(成果指標・実績)

成果指標	目標 (6年度)	策定時 (3年度)	実績	
			(4年度)	(5年度)
県、県立文化会館、県立美術館・博物館が主催する文化芸術行事における、 伝統文化事業の鑑賞者数 (オンラインでの視聴を含む)	増加を目指す ※	—	414,913人	574,197人
県、県立文化会館、県立美術館・博物館が主催する文化芸術行事における、 伝統文化体験事業の参加者数 (オンラインでの体験行事を含む)	増加を目指す ※	—	43,045人	71,323人

※令和4年度に実施する調査の実績値からの増加を目指す。

- 伝統文化事業の「鑑賞者数」「参加者数」は、R4年度実績より増加した。
- 新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、イベント等が再開され、人々が外出するようになったこと、「ちば」の文化芸術発信事業においては、千葉県誕生150周年記念事業と連動した著名人による歌舞伎舞踊公演や狂言公演などを実施しており、こうした取組が増加した要因と考えられる。

→引き続き、ちばの多様な伝統文化を知る機会を提供するとともに、伝統文化を取り巻く関係者等と連携し、地域の伝統文化の保存・継承・活用を図る。

施策の柱3 新たな文化芸術の価値を創造できる社会づくり

～観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業等、他分野との連携により文化芸術が社会の様々な場面で輝く機会を創出する～

県の主な取組

○千葉県芸術文化団体協議会(文化振興課)

芸術文化フォーラムを開催し、県内文化団体の発表・相互理解の場となった。また、文化芸術功労表彰では加盟団体からの推薦により5名を表彰した。

○障害者芸術文化活動支援事業(文化振興課)再掲

詳細はP.3(施策の柱1)参照

○千葉フィルムコミッション運営事業(観光政策課)

映像制作関係者への撮影支援やロケ地情報等の広報活動業務を行い、約90件の撮影が県内で行われた。

○日本遺産魅力発信推進事業(文化財課)

日本遺産「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」について、アフターコロナに向けた観光客誘致事業の推進及び教育旅行誘致に向けた取組みや、「マンガで旅する『日本遺産北総四都市江戸紀行』」の発行や動画の公開等の情報発信を行った。

○県立学校開放講座(生涯学習課)

生涯学習の振興に資するため、県立学校を開放し、生涯学習講座を実施した(12校13講座)。

○景観セミナー(公園緑地課)

良好な景観の形成に関する普及啓発及び知識の普及を図るため、県民等を対象として、県内各地で景観セミナーや研修会等を開催。令和5年度は「色彩から考える公共施設と景観まちづくり」をテーマに講演を開催。

市町村の主な取組

○「いちかわかるた」の制作事業(市川市)

市内の有形無形の地域資源の魅力を発信するため、かるたを制作し市内の小学3年生に配布。教育の場で活用することにより、市内の子供たちに楽しみながら魅力を伝えた。

○科学、芸術、自然をつなぐ国際フェスティバル「科学と芸術の丘2023」(松戸市)

「科学、芸術、自然をつなぐ国際的で創造的な未来の都市」の実現を目指し、戸定の丘を中心とした自然の中で世界最先端の研究機関、研究者、アーティストによる特別展覧会、トークイベント、ワークショップを開催。官民学の垣根を越えて、地元の市民やクリエイター、団体をつなげ、一緒に未来の社会を築いていくことに繋がった。

○やちまた落花生まつり(八街市)

八街落花生の試食・販売や、八街産生姜を使った「八街生姜ジンジャーエール」の試食・販売や新鮮野菜の販売、八街中学校吹奏楽部による演奏や、新たに八街市指定無形民俗文化財「文違麦つき踊り」の披露、やちまたPR大使「落花生娘」によるライブ等のステージイベントを行うことで本市の特産品や魅力を市内外にPRした。

○ベトナム社会主義共和国ダナン市「子どもたちの絵画展」(木更津市)

友好都市であるベトナム社会主義共和国ダナン市にて、「子どもたちの絵画展」が開催され、市内中学校生徒の絵画作品 22点が展示された。

施策の柱3 新たな文化芸術の価値を創造できる社会づくり

(成果指標・実績)

成果指標	目標 (6年度)	策定時 (3年度)	実績	
			(4年度)	(5年度)
観光・国際交流・福祉等、文化芸術と他分野が連携する事業に取り組んだ市町村の割合 (いずれもオンラインでの取組を含む)	70.0%	—	40.7%	42.6%

- 観光・国際交流・福祉等、文化芸術と他分野が連携する事業に取り組んだ市町村の割合は、R4年度から2.6ポイント増加したが、目標の6割程度となっている。
- 「障害者芸術文化活動支援事業」において県立美術館での障害のある人の作品展の開催や、「日本遺産魅力発信推進事業」では「マンガで旅する『日本遺産北総四都市江戸紀行』」の発行や動画の公開などの取組を行うなど様々な事業を実施しており、こうした取組が増加した要因と考えられる。
- 目標まで届かない理由として、各市町村において事業を企画実施する職員やノウハウが不足していることや、予算の確保が難しいことが挙げられる。

→引き続き文化芸術のネットワークの構築に取り組むほか、地域の好事例の共有や地域間の交流・連携を促進するなどの横展開に取り組み、観光等の様々な分野と連携した文化資源の活用と地域の活性化を図る。

施策の柱4 次代を担う子どもや若者がちばの文化芸術に触れる機会づくり

～新たな文化芸術の担い手となる子ども・若者が文化芸術に触れる機会を創出する～

県の主な取組

○学校音楽鑑賞教室(文化振興課)

次代の文化を担う児童・生徒を対象として、質の高い演奏に触れる機会を提供するため、千葉交響楽団による巡回公演を44公演(県立高等学校1校、県内公立小・中学校43校)実施した。

○千葉県少年少女オーケストラ育成事業(文化振興課)

千葉県誕生150周年記念行事のオープニングイベント(森のホール21)での招待演奏や、東京芸術劇場で定期演奏会を開催。演奏会の様子をテレビ放送も行うなど、次代を担う少年少女の音楽文化の向上とオーケストラ活動の普及を図った。

○アーティスト・フォローアップ(モデル)事業(文化振興課)

既存の枠にとらわれない、多様で優れた文化芸術活動を行う才能豊かな新進アーティストなど、将来の芸術家の芽を育む取組を推進し、そのキャリア形成を支援。(応募:63件、選定:8件)

○文化芸術のミライ応援補助金(文化振興課)

(若者の文化芸術活動育成支援事業補助金)

若者による文化芸術団体7団体7事業に対し補助金を交付することで、県民に様々な分野の文化芸術に触れる機会を提供し、文化芸術の発表の機会を設けることで文化振興に寄与した。

○「ROCK IN JAPAN FESTIVAL」関連事業(文化振興課)

千葉市蘇我スポーツ公園で開催される国内最大の夏フェス「ROCK IN JAPAN FESTIVAL」に本県の若者がオープニングアクトとして出演できるオーディションやバックヤードツアーを実施。

○水産物消費・食育対策事業(水産課)

県内の高等学校の料理教室に講師を派遣し、本県の郷土料理である「なめろう」や「さんが焼き」の伝承に努めた。(派遣回数:11回)

市町村の主な取組

○ROAD TO JAPAN JAM 2024(千葉市)

千葉市蘇我スポーツ公園で開催される国内最大の春フェス「JAPAN JAM」へのオープニングアクトとしての出場権をかけたアーティストコンテストを実施。

○ミュージックフェスタ2024(野田市)

市内の中学、高校の吹奏楽部等による音楽の祭典。吹奏楽の技術向上と市民へ学生たちの練習の成果の発表の場を提供。

○第1回もばら子どもギャラリー(茂原市)

茂原市内の0歳～小学6年生までの子どもたちからの公募作品をすべて展示する展覧会。バーチャルミュージアム映像として会場の映像配信も実施。

○御宿小学校・布施小学校寄席(御宿町)

創立150周年記念事業として、講談師や落語家による児童の体験、代表児童の講談を実施。講談師の神田紅氏が、両校の為に特別に制作した「五倫鬘物語」を披露。

○アーティスト発掘プロジェクト(鎌ヶ谷市)

市内外で活躍している市民アーティストに表現発表の場を提供し、コンテスト受賞者には単独公演開催補助など様々な特典を授与し、アーティスト活動をバックアップするコンサート企画。

施策の柱4 次代を担う子どもや若者がちばの文化芸術に触れる機会づくり

(成果指標・実績)

成果指標	目標 (6年度)	策定時 (3年度)	実績	
			(4年度)	(5年度)
県及び市町村における、子ども・若者を対象とした文化芸術事業の参加者数(子ども・若者の人数に限る)(オンラインでの取組を含む)	増加を目指す ※	—	86,260人	108,677人

※子ども・若者:0歳～おおむね30歳未満。施策によっては40歳未満までの者。(子供・若者育成支援推進大綱(内閣府)において定義)

※令和4年度に実施する調査の実績値からの増加を目指す。

- 子ども・若者を対象とした文化芸術事業の参加者数はR4年度実績より増加した。
- 新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、イベント等が再開され、人々が外出するようになったことや、環境の変化によりオンライン等で気軽に鑑賞・活動できる機会が定着してきたこと、文化芸術のミライ応援補助金、「ROCK IN JAPAN FESTIVAL」関連事業などの若者を対象とした様々な事業を実施しており、こうした取組が増加した要因と考えられる。

→引き続き次代を担う子どもや若者が文化芸術に触れる機会の充実を図るとともに、近年、様々なイベントが県内で開催されるようになり、県民が親しむ機会が身近になってきたことを踏まえ、こうした機会を活用しながら、新たな文化芸術の担い手となる子ども・若者への取組を推進していく。

施策の柱5 ちばの強みを生かした文化芸術の創造・発信

～ちばの強みを生かした「ちば文化」のブランド化と、近年、文化芸術の新たな表現手段や発信・保存方法として発達してきたテクノロジーの導入や、伝統文化及び地域固有の文化と国内外とのコラボレーションなどにより、新たな「ちば文化」の創造を進める～

(主な取組)

県の主な取組

○千葉県誕生150周年記念事業(文化振興課)

本県ならではの多様な文化資源や魅力を発信するとともに、千葉のブランド価値の創出・向上や地域活性化につなげるため、広域での連携による記念事業や、県内大型商業施設等による新たな企業連携、本県の豊かな自然環境、東京の隣接性を活かした「百年後芸術祭」等、さまざまな新しい取り組みを実施した。

○千葉の海の魅力発信事業(文化振興課)

千葉の海について、統一感のある魅力発信を行うため選定した、ブランドデザイン等を活用し周知を行った。また、千葉の海の魅力をより効果的及び統一感をもって発信していくため、「千葉の海・大使」を任命し、イベント等への参加やイラストの寄稿等を実施した。

○「ちば文化資産」PR事業(文化振興課)

パンフレットや動画等の広報資料を作成し、千葉県誕生150周年記念事業をはじめ、駅や商業施設で放映、配布を行った。

○新しい千葉の食文化創生事業(販売輸出戦略課)

本県の新たな食文化の1つとして、県内の多彩な農林水産物を活用できるアヒージョに、隠し味として千葉県にゆかりの深い調味料である「醤油」を加え、「黒アヒージョ」として提案し、体験会や料理コンテストの開催、アニメとのコラボ企画などによる様々なプロモーション活動を行い、普及に努めた。

市町村の主な取組

○XPストリートカルチャー24(松戸市)

地元のストリートカルチャーに精通した若者たちが21世紀の森と広場を活用してイベント(スケートボードやBMX、ストライダー、ストリートバスケ、ストリートダンス等の体験型ワークショップ)を開催し、若い世代にストリートカルチャーの表現活動や創作活動、文化的な背景に興味や関心を持ってもらう。

○百年後芸術祭～環境と欲望～内房総アートフェス(県内5市)

音楽家の小林武史氏と近隣5市(市原市、袖ヶ浦市、木更津市、君津市、富津市)の市長等で組織する実行委員会により、各市においてイベント、アート作品の展示等を実施した。

○飯高檀林コンサート(匝瑳市)

国の指定重要文化財である飯高寺の講堂において毎年10月にオペラ、邦楽、民謡等の実演家を招いて開催。令和5年度も市内外から多くの観客が訪れ、声楽とギターやパーカッション等の演奏を楽しんだ。

○木更津市史デジタルアーカイブ公開事業(木更津市)

千葉県有形指定文化財「天正検地帳」や新発見の検地帳などのデジタル画像と翻刻文や戦国時代の城跡・真里谷城跡、天神台城跡、要害城跡の立体画像である陰陽図、木更津市史自然編資料をデジタルアーカイブシステムADEACで「木更津市史デジタルアーカイブ」として公開

施策の柱5 ちばの強みを生かした文化芸術の創造・発信

(成果指標・実績)

成果指標	目標 (6年度)	策定時 (3年度)	実績	
			(4年度)	(5年度)
文化芸術に触れ、自ら取り組むことができる環境が整っていると思う県民の割合	50.0%	—	19.7%	22.1%

※県政世論調査の結果による。

- 文化芸術に触れ、自ら取り組むことができる環境が整っていると思う県民の割合は前年度より2.4ポイント増加したが、目標の半分程度となっている。
- 千葉県誕生150周年記念事業において、県内市町村の多くで地域の歴史や文化に着目したイベントや祭り、ワークショップなどが開催されるとともに、広域での連携による芸術祭等が実施されたことにより、増加につながったものと考えられる。
- 一方で、県民意識調査において「文化芸術活動を行う際に課題とを感じる点」について「練習・制作のための場所が少ない・遠い」、「活動に必要な費用が高額」、「新規加入者が少ない」、「発表の場が少ない・遠い」等の回答があり、目標まで届かない理由と考えられる。

→県民が文化芸術に触れ、自ら取り組むことができる環境が整っていると感じられるよう、各事業の実施や情報提供、県内文化施設の機能充実を図るなど、取組を続けていく。

令和5年度の進捗状況(一覧)

項目	指標	目標 (6年度)	策定時 (3年度)	実績	
				(4年度)	(5年度)
基本指標 【目指す姿】	あらゆる人々が文化芸術に親しみ、交流することで創り育む心豊かな県民生活と活力ある地域社会				
	この1年間に文化芸術を鑑賞した県民の割合 ※1	75.0%	71.8%	74.0%	76.7%
	この1年間に、鑑賞を除く文化芸術活動をしたことがある県民の割合 (「文化芸術活動」とは、創作や出演、習い事、祭りや体験活動、趣味を同じくするグループでの活動への参加を含む) ※1	50.0%	—	24.3%	28.0%
施策の柱 1	あらゆる人々が文化芸術に親しむことができる環境づくり				
	県の主催事業や、県内公立文化会館(自主事業に限る)、美術館・博物館において、文化芸術を鑑賞した人数 ※1	増加を目指す ※2	—	2,789,759人	4,219,460人
	県の主催事業や、県内公立文化会館(自主事業に限る)、美術館・博物館において、文化芸術活動を行った人数(発表、練習、文化芸術関連の講座への参加等) ※1	増加を目指す ※2	—	496,153人	575,757人
施策の柱 2	ちばの多様な伝統文化が輝き続ける地域づくり				
	県、県立文化会館、県立美術館・博物館が主催する文化芸術行事における、伝統文化事業の鑑賞者数 ※1	増加を目指す ※2	—	414,913人	574,197人
	県、県立文化会館、県立美術館・博物館が主催する文化芸術行事における、伝統文化体験事業の参加者数 ※1	増加を目指す ※2	—	43,045人	71,323人
施策の柱 3	新たな文化芸術の価値を創造できる社会づくり				
	観光・国際交流・福祉等、文化芸術と他分野が連携する事業に取り組んだ市町村の割合	70.0%	—	40.7%	42.6%
施策の柱 4	次代を担う子どもや若者がちばの文化芸術に触れる機会づくり				
	県及び市町村における、子ども・若者を対象とした文化芸術事業の参加者数 (子ども・若者の人数に限る) ※1	増加を目指す ※2	—	86,260人	108,677人
施策の柱 5	ちばの強みを生かした文化芸術の創造・発信				
	文化芸術に触れ、自ら取り組むことができる環境が整っていると思う県民の割合	50.0%	—	19.7%	22.1%

基本指標及び施策の柱5については、県政世論調査の結果による。

※1 オンライン含む。

※2 令和4年度に実施する調査の実績値からの増加を目指す。